

大拙と松ヶ岡文庫展の開催を喜ぶ

二〇一六年七月十二日に鈴木大拙博士歿後五十年を迎えるに当たり、「大拙と松ヶ岡文庫展」を多摩美術大学美術館で開催することになりました。

財団法人松ヶ岡文庫の設立経過は、鈴木大拙博士及び大拙の発願に賛同する有志(明石照男、石井光雄、岩波茂雄、安宅彌吉、小林一三、五島慶太、近藤滋弥、酒井忠正)により、昭和二十年北鎌倉松ヶ岡に設立され、翌二十一年二月財団法人として認可を受けて発足しました。文庫の設立は、かつて大拙の師であった釈宗演老師(一八五七―一九一九)によつて発案されたものであります。平成二十五年に認可発足した公益財団法人松ヶ岡文庫になつても、その目的は変わらず、「寄附行為」には、「本文庫は、仏教殊に禅宗に関する文献図書を集及び保存し、これを研究者の閲覧に供するほか、広く一般読書人に公開してその教養に資し、併せて禅に関する知識の普及を図ることを目的とする」としています。特に東慶寺の裏手の入口に建つ「松ヶ岡文庫 安宅自安居土頌徳碑碑文」には、文庫の基礎は安宅彌吉氏(一八七三―一九四九)の援助によるとし、研究生活の私的援助も大きかったと大拙博士は述べています。

今回の松ヶ岡文庫展の最大の魅力は、大拙博士の貴重な遺品や文庫所蔵の文化財、未公開の版本と新たに刷られた版画などが数多く出品されていることでしょう。また、大拙博士と日本を代表する多くの有名人との交流を同時に知ることができるに違いありません。